高野校だより

150th

舞鶴市立高野小学校
令和５年度学校だより
第８号
令和５年 11 月１日発行

校訓　至誠　進取　自治　協同

〒624-0832 舞鶴市高野台１－１
Tel　0773-75-0768 Fax78-3050
HP https://takano-maizuru.edumap.jp

実りの秋　力を伸ばす子どもたち

「奥山にもみじ踏み分け鳴く鹿の　声聞く時ぞ秋は悲しき」小倉百人一首にある短歌ですが、この歌のように高野小学校の裏山では、昼夜を問わず鹿の声が高らかに響いています。また銀杏の木が色付いた葉を落とし始め、日に日に秋の深まりを感じます。

10 月には運動会、校内マラソン大会などの行事を実施することができ、子どもたちが付けてきた力、仲間とともに力を合わせてはぐくんできた集団としての高まりなどを発揮することができました。

残暑厳しい中、運動会の練習に取り組んできましたが、運動会当日は少し肌寒さを感じる日となりました。とはいえ前日準備から、当日と爽やかなよい天候に恵まれ、よいコンディションの中で実施することができ、子どもたちが思う存分力を発揮できたことをとても嬉しく思います。

子どもたちは、自らの目標、学年としての目標を掲げて熱心に、そして力を合わせて練習に取り組みました。保護者、地域の皆様に温かく見守られ、精一杯力を出し切るとともに、仲間を信頼し、支え合うことの大切さを学ぶことができました。この学びを今後の学校生活に活かし、充実した日々を過ごしてほしいと願っています。運動会に向けてご家庭での励ましや多岐にわたるお力添え、当日の温かい応援、拍手、また役員様には前日準備、早朝よりの準備、当日の運営、後片付けに至っては役員様の他、有志の皆様にもお世話になり、子どもたちの頑張りを支えてくださったことに心より感謝申しあげます。本当にありがとうございました。

校内マラソン大会の様子

校内マラソン大会では、体育の時間や業間マラソンなど継続した取組で持久力を伸ばしてきました。平日の夕方や休みの日に練習している姿も見かけました。自分の目標に向かって精いっぱい努力している子どもたちの姿は見ていて本当に気持ちがいいものです。自分の力に応じた目標を掲げ努力してきたことは、今後大きな力として活きてくることと思います。走路監視員など、保護者・地域の皆様には子どもたちの安全への配慮など多大なご協力をいただきました。また、区長会様の計らいで、地域支援事業にご協力いただいた有志の皆様には、10 月 22 日にマラソンコース沿道の草刈りをお世話になり、コース沿いの環境を整えていただきました。おかげさまで当日は、秋晴れのたいへんよい天候にも恵まれ、子どもたちは存分に力を発揮することができました。お世話になり本当にありがとうございました。

「和顔愛語」（わげんあいご）

「和顔愛語」とは、和やかな笑顔と思いやりのある話し方で人に接することを表す言葉です。この言葉は、さらに「先意承問」（せんいじょうもん）という言葉にもつながります。相手の気持ちを先に察して、その望みを受け取り、相手のために自分ができることをするという意味です。つまり、「和顔愛語」「先意承問」とは、和やかな顔と思いやりの言葉で人に接して、先に相手の気持ちを察し、相手のために何ができるのかを自分自身に問い正してみるということです。

嫌なことがあった時には愚痴や文句を言いたくなりますが、そんな時こそ、まず自分から笑顔と優しい言葉で周りの人に接する姿勢を持つこと、それが「和顔愛語」です。 しかし、実際に「和顔愛語」を実践することは、そう容易なことではありません。機嫌が悪い時にはなかなか笑顔にはなれないものです。好きでもない相手に、思いやりのある優しい言葉をかけることには、抵抗があるかもしれません。そこで大切なのが「先意承問」です。簡単な言葉に直すと「相手のことを先に考えて、与えること」です。笑顔になってほしいのならば、まずは自分から相手に笑顔を見せる。優しい言葉をかけてほしいのならば、まずは自分から相手に優しい言葉をかけることです。自分から先に相手の気持ちを重んじて、相手の幸せを考えます。大切なのは、思いやりであり、ともに思いやることを心がけていれば、自分も相手も心穏やかに過ごすことができます。いつも穏やかな顔でいれば、心も穏やかになります。周りにいたわりの言葉をかけていれば、自然と心が優しくなります。笑顔で優しい言葉をかけることで、相手がその言葉によって心が明るくなり、幸せを感じます。自分が幸せであるだけでなく、まわりの人も幸せにしていこうと感じ、さらにその行動や言葉が、また自然と周囲の人たちの心を明るくします。

11 月には、人権集会や人権にかかわる学習などを実施する人権旬間の取組を行います。自分の行動を振り返ったり、交流から友達の様々な意見や考えを受け止めたりすることで、一人一人が持つ大切な人権について考える時間を持ちます。

まずは身近なところで自分から進んで「和やかな笑顔と思いやりのある話し方」「相手のことを考えて行動する。」が実践できるよう子どもたちの心に働きかけをしていきたいと考えております。すぐに笑顔や優しい言葉かけが身に付くというものではないかもしれません。それでも一人一人が「和顔愛語」を心がけていれば、一人一人の心が優しくなり、笑顔が循環する素敵な学校になるのではないかと考えております。

保護者の皆様、地域の皆様には、寒くなる折お体をご自愛いただき、引き続きお力添えを賜りますようよろしくお願い申しあげます。

校長　材木　敏志　　教職員一同